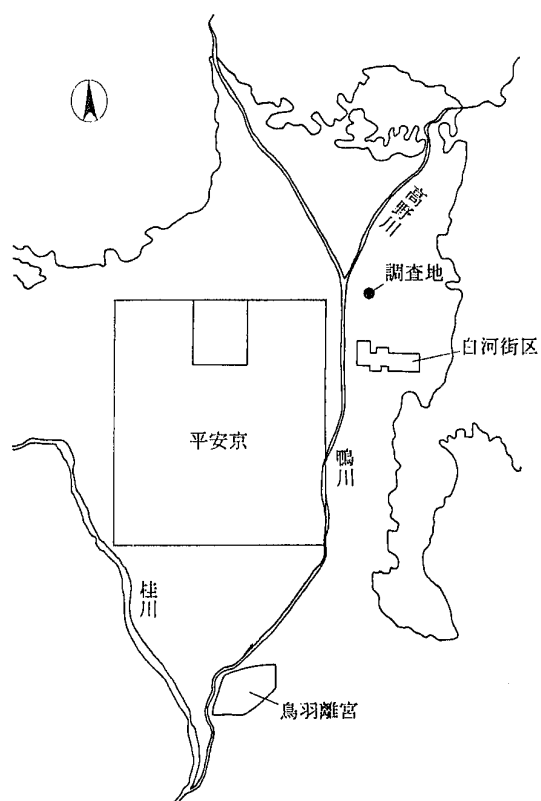


京都大学西部構内遺跡

発掘調査現地説明会資料

— 平安時代後期の屋敷跡 —



1997年3月8日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

京都大学西部構内遺跡

発掘調査現地説明会資料

-
- ・所在地 京都市左京区吉田泉殿町
 - ・調査期間 1996年11月18日～ 継続中
 - ・調査面積 約490m²
 - ・調査主体 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
-

－ 遺跡の概要 －

京都大学西部構内遺跡は、東大路通より西、^{まりこうじ}鞠小路より東、今出川通より南、東一条通より北をおおむねの範囲とし、京都大学の西部講堂付近を中心に広がっている。この遺跡の発掘調査例は少なく、遺跡の内容は詳しく判っていない。

この地は、鎌倉時代の朝廷で権勢を誇った公家、^{さいおんしきんつね}西園寺公経の別荘「吉田泉殿」(^{かろく}嘉禄3年〔1227〕造営)の旧地とされ、江戸時代には庭園の池や庭石が残っていたという。現在は町名のみが残る。

－ 調査成果 －

12世紀中頃から後半(平安時代後期)の屋敷跡を検出した。屋敷跡は、掘立柱建物と井戸からなる屋敷内部の施設と、屋敷を囲う溝と^{へい}塀からなる。掘立柱建物と塀は木製の柱を地中に埋めて上部を建ち上げるので、遺跡としては柱穴のみが検出される。したがって、検出した柱穴の配列から建物や塀の跡を読み取ることができる。

掘立柱建物…溝と塀で囲われた内部に2棟検出した。柱穴内の柱の痕跡から、掘立柱建物1・2の柱は太さ14cm程度の角柱が用いられていることが判る。建物1は2間×2間以上の^{もや}身舎の西と北に1間ずつの庇が付く。身舎の東側は調査区の外に延び不明であるが、西・北側と同じく1間分の庇が付くものと想像する。その北側にある建物2は1間×2間以上である。これらは掘立柱建物で柱が細いこと、周囲から瓦がほとんど出土していないことから、草や板で屋根を^ふ葺いていたものと思われる。

井戸…掘立柱建物の西側に隣接する1基がある（井戸1）。石や板による土留めの無い素掘の井戸で、底に曲物まげものを用いたと思われる円形の水溜がある。同様の構造の井戸は、この他にも屋敷の内外に数基ある（井戸2他）。また、屋敷を囲う溝の外側に、石を積んで土留めをした井戸が1基ある（井戸3）。

溝…調査区を東西方向に貫くつらぬ状態で検出した。幅約1.5m、深さ約0.6m、長さ23m以上ある。屋敷側の斜面に丸味のある川原石を6～8段積んで護岸を施す。調査区中央部付近には、溝を埋めて造った部分があり、ここが屋敷への出入口になっていたものと思われる。出入口部分の両側面も石を積んで土留めとする。この時代の溝としては、手の込んだ珍しい造りである。鳥羽離宮や六勝寺などの大型建築の基礎工事の技法に通じるものがあり、当時の石積み技法の一端を知ることができる。

塀…溝の屋敷側に接して柱列を検出した。柱跡は約2mの間隔で東西方向に連なる。屋敷を囲う塀の跡である。柱の規模は掘立柱建物と同じで、しっかりとした板塀であったと考える。同様の柱列を、溝の北側で2列検出している（柵1・2）。これは仮設の防御施設である可能性がある。

出土遺物…溝と井戸3から多量の土師器皿がまとまって出土している。また、瓦器碗がほとんど出土せず、中国製陶磁器の比率が高い。この2点は、平安京内の土器の出土傾向に似る。この屋敷で都市型の消費生活が営まれていたことが判る。

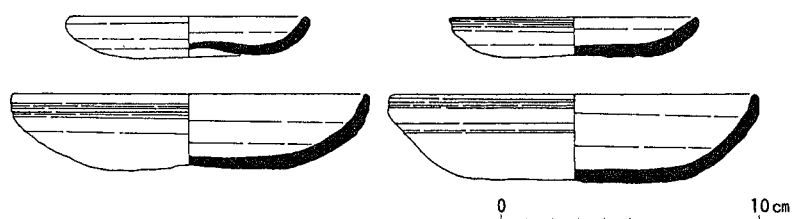
－ 検 出 遺 構 の 意 義 －

屋敷跡は一辺が30m以上ある方形あるいは長方形の敷地と考える。検出した掘立柱建物は、この屋敷の中心の建物ではなく副屋と考える。

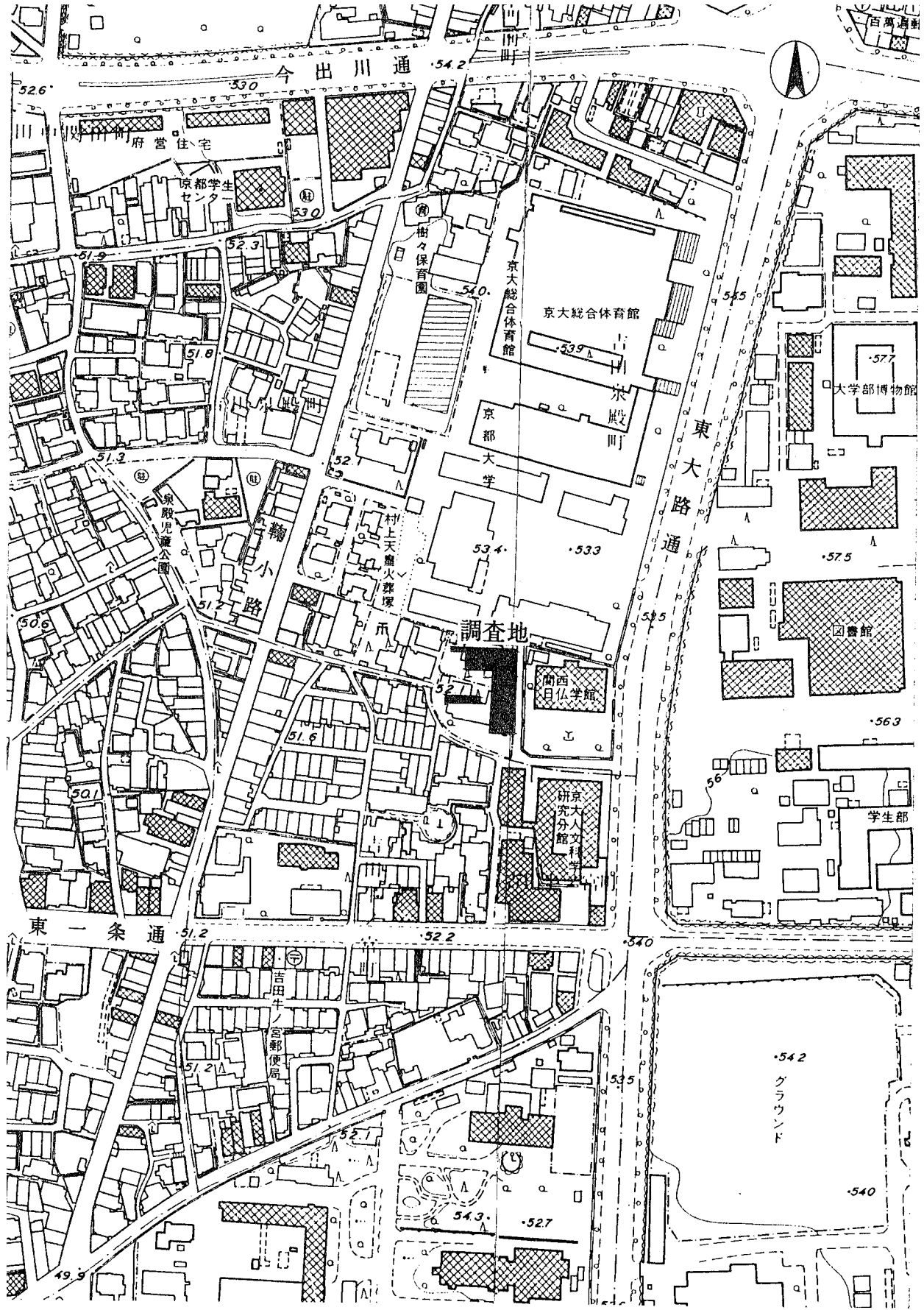
このような溝や塀で囲われた1辺30mから50m程度の屋敷跡は、この遺跡と同じ平安時代後期ごろに全国的に出現する。これらの遺構は、一般的に農業経営を行なう地方武士の居館跡と考えられている。しかし、この遺跡は平安京の近郊にあり、開発領主的な人物の屋敷とは考えにくい。発掘成果のみから、この屋敷跡に暮らした人物の姿は容易に類推しがたいが、院の御所である白河北殿や平安京に近いことから、上皇や権門勢家の警備にあたった京都常駐の武家の屋敷の可能性を考えておきたい。

年 表

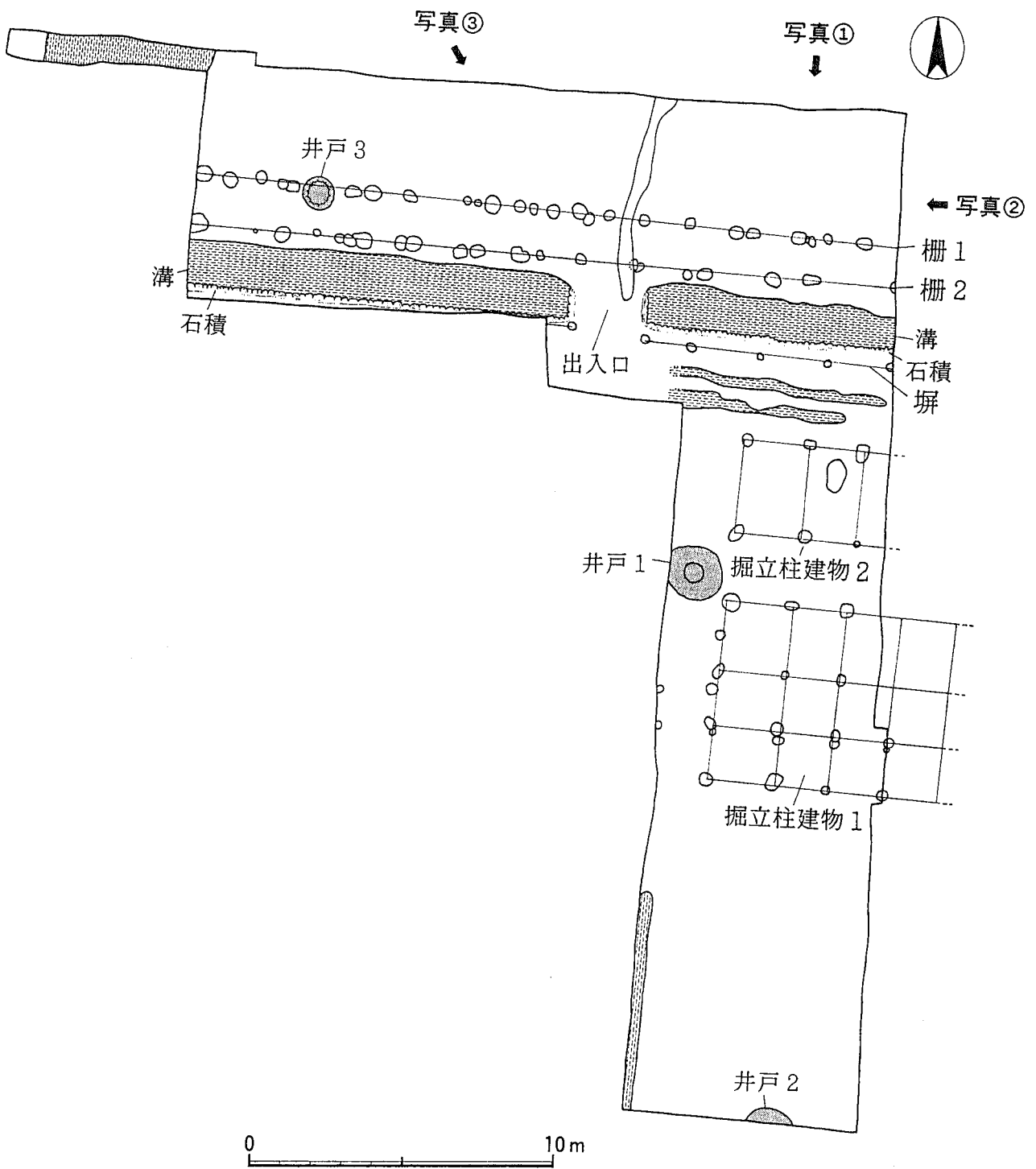
- 1077年（承暦元） 白河天皇が法勝寺を造営する。
- 1086年（応徳3） 白河上皇が院政を開始する。鳥羽離宮の造営が始まる。
- 1094年（嘉保元） 北面の武士がおかれる。
- 1156年（保元元） 後白河天皇側の源義朝、平清盛らが、白河北殿の崇徳上皇を攻める。（保元の乱）
- 1159年（平治元） 藤原信頼・源義朝のクーデターを平清盛が鎮圧する。（平治の乱）
- 1167年（仁安2） 平清盛が太政大臣となる。
- 1180年（治承4） 以仁王が挙兵する。福原遷都。源頼朝・義仲が挙兵する。
- 1181年（養和元） 平清盛が没する。
- 1185年（文治元） 壇ノ浦の合戦で平家が滅亡する。
- 1192年（建久3） 源頼朝が征夷大將軍となる。
- 1221年（承久3） 承久の乱。
- 1227年（嘉祿3） 西園寺公経、吉田泉殿を造営する。（『明月記』）
- 1255年（建長7） 後嵯峨上皇、吉田泉殿に御幸する。（『百鍊抄』）
- 1265年（文永2） 後嵯峨上皇、吉田泉殿に御幸する。（『帝王編年記』）



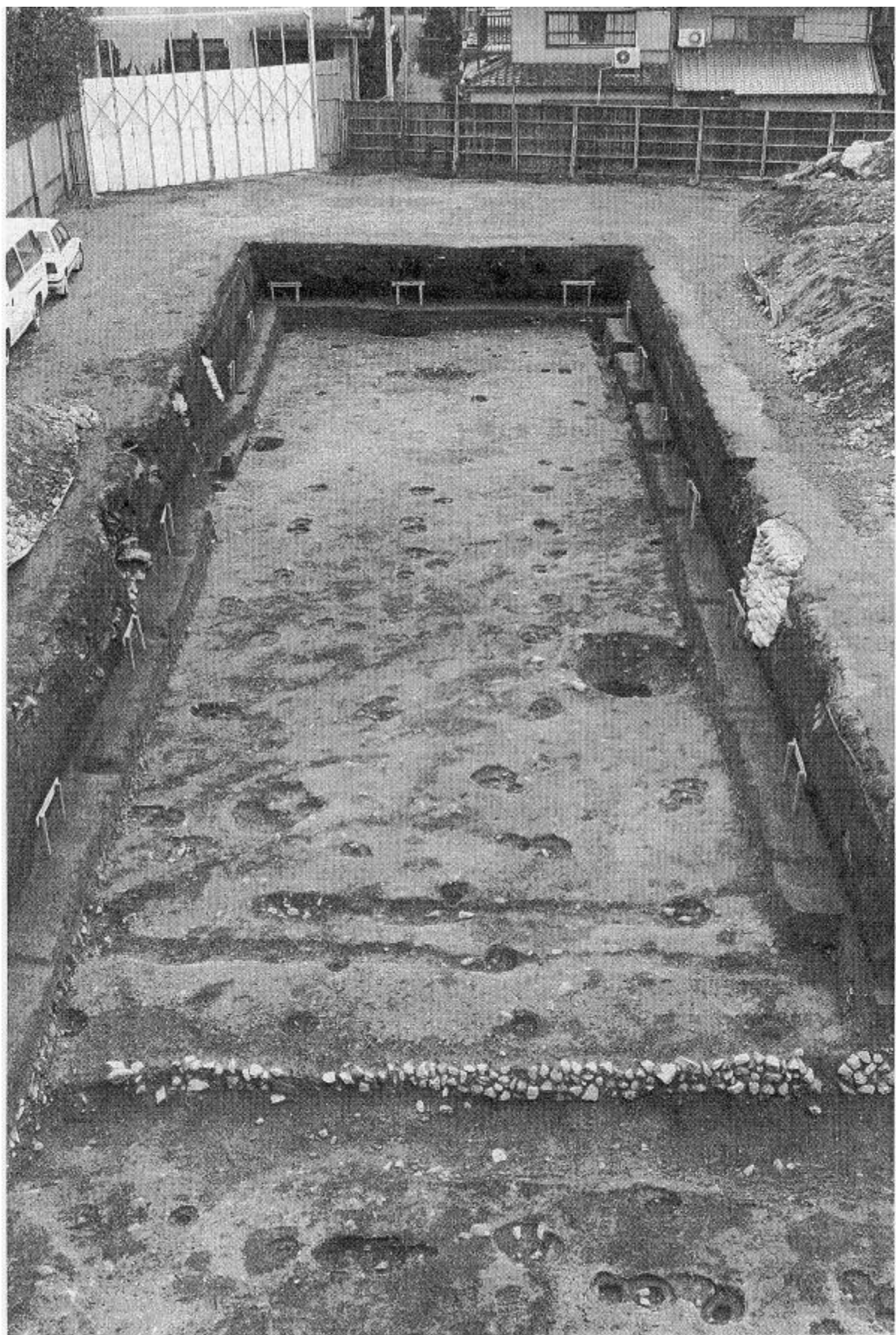
溝から出土した土師器皿（1：3）



調査位置図 (1 : 2,500)



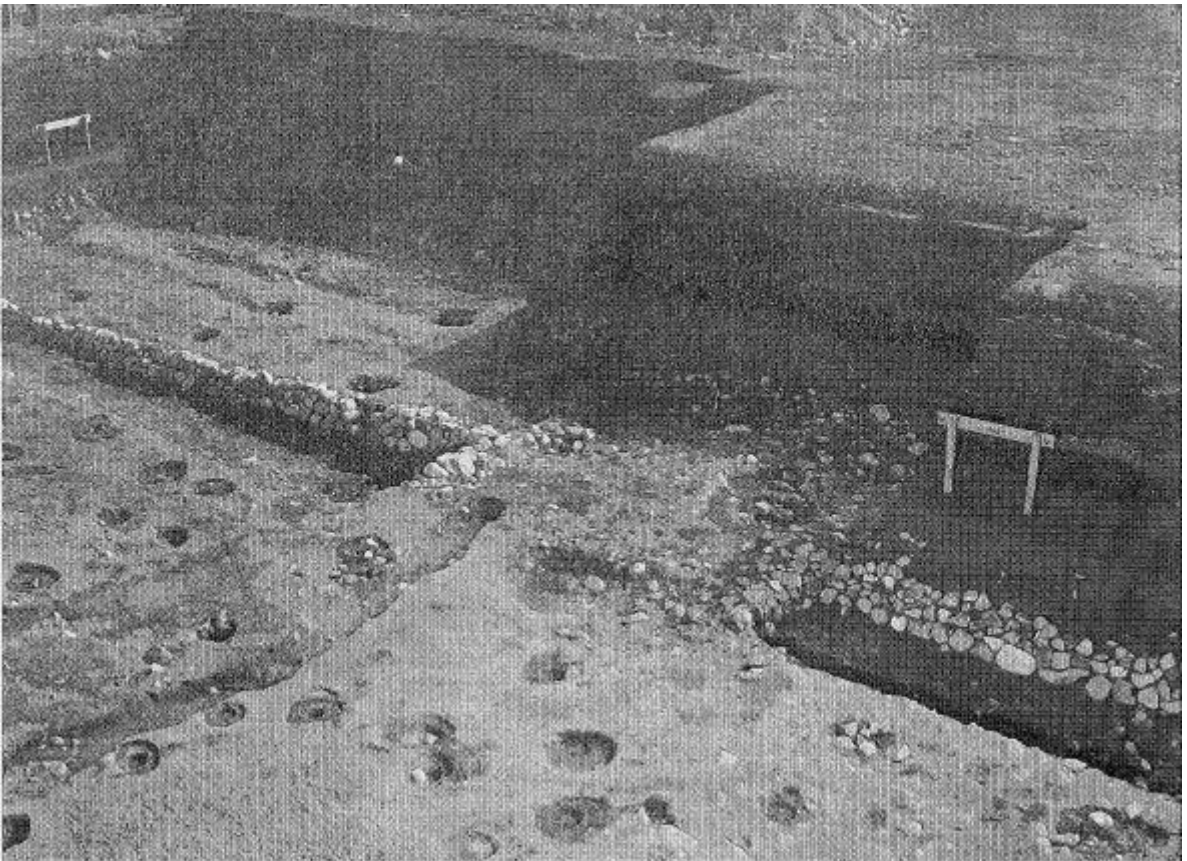
検出した遺構の平面図 (1 : 200)



写真① 屋敷を囲う溝と掘立柱建物（北から）



写真② 屋敷を囲う溝と柱列（東から）



写真③ 屋敷を囲う溝と出入口（北西から）